平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人東京工業大学

１ 全体評価

東京工業大学は、建学以来、産業を牽引する科学・技術者を育み、我が国の基幹産業の創成と発展を担うとともに、最先端の研究成果を創出することを目指している。第３期中期目標期間においては、こうした伝統と独自の特性を重視しつつ、『出藍の学府の創造。日本の東工大から世界のTokyo Techへ』を基本方針として、教育面では、トップレベルの質の高い教育を実現して、世界に飛翔する気概と異文化を受容する柔軟性を具備し、科学技術を俯瞰できる優れた人材を輩出すること、研究面では、地球環境と人類の調和を尊重しつつ、真理の探究と革新的科学技術の創出によって地球上全ての構成員の福祉の増進に資することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、国際的な広報活動及び教育・研究の協働を主目的とした産学連携拠点である「Tokyo Tech ANNEX」をバンコク（タイ）に設置するとともに、企業から寄贈された先端精密機器を中心とした共用機器室を開設し、国際共同研究及び先端研究の推進並びに若手研究者・学生の研究支援に活用するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　優秀な若手研究者を雇用したうえで海外へ長期派遣し研究活動を行うことで、国際共同研究の促進を目指す「東工大博士研究員制度」を設計し、試行派遣者を選定している。また、海外拠点を活用した学生派遣事業として、フィリピンオフィスを活用した派遣プログラム等を実施している。（ユニット「世界トップレベルの大学との連携による教職員・研究者・学生の交流を通じた国際化の推進」に関する取組）

○　大学全体の戦略立案を行っていた企画戦略本部に、企画立案執行組織の指揮統括を行う機能を付加し、戦略統括会議として設置したことで、執行部・部局・事務局が一体となって企画立案から執行を連携して行う運営体制を整備している。（ユニット「学長のリーダーシップを十分に発揮できるガバナンス改革」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載24事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 男女共同参画に向けた取組の実施

女性研究者への国際学会参加費等の補助を行うとともに、ベビーシッター派遣支援、学内保育園の開園及び男女共同参画に関する講演等、男女共同参画に向けた育児環境の改善や教職員の意識の醸成に関する取組を積極的に実施した結果、教職員の女性管理職の割合が20.4%（対前年度比約6.1ポイント増）となっている。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**課題**がある。

○ 入学者選抜における出題ミス

平成30年度の学士課程一般入試後期課程において、総合問題の設問に出題ミスがあり、追加合格を行っていることから、チェック体制の見直し等、再発防止に向けた組織的な取組を引き続き実施することが望まれる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載28事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 国際的活動を見据えた海外産学連携活動拠点等の設置

既存の個別プログラム運営のための海外拠点とは異なる、戦略的な広報活動及び教育・研究の協働を主目的とした新たな産学連携活動の拠点として、バンコク（タイ）に国際教育研究拠点「Tokyo Tech ANNEX Bangkok」を設置するとともに、海外企業や研究助成機関等からの寄附金等研究資金を獲得するため、米国に非営利団体である「Tokyo Tech USA」を設置している。

○ 企業から寄贈された機器を中心とした共用機器室の設置

企業から寄贈されたライフサイエンス関連の先端精密機器を中心に、共用機器室である「島津製作所精密機器分析室」を開設し、先端研究及び国際共同研究の推進、若手研究者・学生の研究支援に活用するとともに、寄贈先企業においても産学連携スペースとしての活用を計画している。

○ 同窓会と連携した大学発ベンチャーの創出に向けた取組

研究力強化と国際協働、研究成果の社会還元を目的に、起業志望者への創業支援・育成をはじめとした、ベンチャー育成のための共同事業に係る覚書を同窓会組織と締結し、ベンチャー支援に係る意見交換等を実施している。

○ 研究成果の実用化を目指したベンチャー企業との共同研究契約の締結

大学の研究成果を活用した世界初となるオンサイト型のアンモニア合成システムの実用化を目指す企業である「つばめBHB株式会社」に「東工大発ベンチャー」の称号を付与するとともに、共同研究契約を締結し、研究開発を推進するとともに、特許ライセンス等の事業サポートを行っている。